

**海運の重要性を学校教育の場で
～東京港・大井/品川ふ頭・下関市・横浜港において教員向け見学会を実施～**

当協会では、日本を支える海運の役割や重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しています。

今般、7 月 20 日（月・祝）に東京港、7 月 29 日（水）に TOKYO ミナトリエ及び品川ふ頭、7 月 30 日（木）に下関市で長州出島や三菱重工造船所等、8 月 5 日（水）に大井ふ頭及び品川ふ頭、8 月 9 日（日）に横浜港において、それぞれ教員向けの見学会を実施しましたので、その模様をお知らせします。

1. 自動車船の見学会（7 月 20 日（月・祝） 東京港）

東京国際クルーズターミナルで開催された海の日記念行事 2026 において、当協会は商船三井の協力のもと、日本海事広報協会と共催で、自動車船「LAZULITE ACE」の教員向け見学会を開催しました。今回は小学校の教員 16 名に加え、ミス日本「海の日」の野口絵子さんにもご参加いただき、共に船内を巡りました。一行は、全長約 200m・高さ約 50m の巨大な新造船に乗り込み、船橋（ブリッジ）や船員居住区エリアを見学した後、船倉（貨物スペース）へ移動し、自動車の積み付け作業の実演を見学。



<見学した自動車船>



<積み付けられた車>

わずか横幅 10cm、前後 30cm 程度という極小の駐車幅で正確に車を停めていくプロの熟練技を目の当たりにしました。参加した教員からは、「自動車船の大きさに圧倒された。この感動体験を余すことなく生徒に伝えたい。」「写真で見るのと実物を見るのではまるで違う。現場を見学させてもらう有意義さを改めて実感した。」といった声が寄せられ、大変充実した見学会となりました。

2. 海事施設・RORO 船の見学会（7 月 29 日（水） TOKYO ミナトリエ・品川ふ頭）

日本海事広報協会との共催で、都小社研（東京都小学校社会科学研究会）に参加する教員 31 名を対象に、午前はミナトリエで船長講話と東京港の説明を行い、午後には品川ふ頭に移動して RORO 船の見学会を実施しました。

TOKYO ミナトリエでは、日本船長協会の小尾船長から、船の種類や貨物、船員の仕事内容、船内生活についての講演が行われました。質疑応答では、「船内で急病人がでたときは



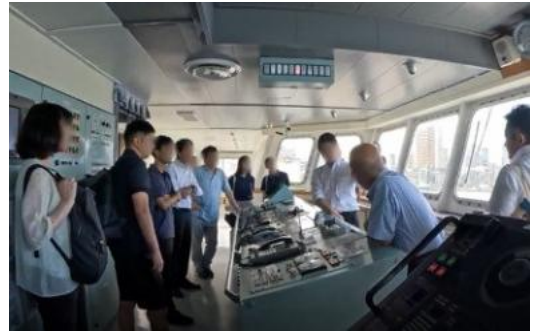
<船長講話の様子>



＜ミナトリエ見学の様子＞

午後は品川ふ頭に移動し、栗林商船の協力のもと RORO 船を見学しました。船の操縦をする船橋（ブリッジ）を見学した際は、電子海図やレーダー、近隣の船との通信ができる VHF 無線、船を着岸させるときに使用するスラスターの操作機器等について説明を受けました。

参加した教員からは、「現役の船長や航海士の方からリアルなお話を伺えてよかった。」「キャリア教育にもつながれる内容だった。」「RORO 船について初めてお話を伺い、臨海地域を走行するトラクターヘッド（前側だけのトラック）が多い謎が解けた。」等の感想が寄せられました。



＜RORO 船ブリッジにて＞

3. 複合ターミナル・造船所の見学会（7 月 30 日（木） 下関市長州出島・三菱重工下関造船所他）

九州運輸局下関海事事務所主催のもと、九州海事広報協会と協力し、下関小学校教育研究会社会科部会に所属する教員 48 名を対象に海事施設の見学会を開催しました。午前とは下関海陸輸送㈱に協力いただき、長州出島（国際物流ターミナル）と、下関バイオマス発電所での燃料荷役を見学した後、下関市港湾局から下関港ウォーターフロントの説明を受け視察を行いました。午後は三菱重工㈱下関造船所を見学した後、小学校に移動して、九州運輸局下関海事事務所の概要説明、九州海事広報協会及び当協会が出前授業を実施しました。



＜長州出島管理棟屋上にて＞



＜バイオマス発電所用の燃料荷役を見学＞

長州出島では管理棟の屋上から、コンテナ・自動車等を取り扱う複合ターミナルを見学しました。当日は、年に 2 回しか寄港しない捕鯨船の着岸日と重なり、参加者は珍しい船の姿を熱心に写真に収めていました。続いて、バイオマ

ス発電所へ移動し、粉末状燃料（木質ペレット）の荷役作業を見学しました。船からの荷揚げやトラックへの積み込み、燃料貯蔵施設への搬送が 1 つの敷地内で行われており、効率的な物流体制について理解を深めました。その後、下関港ウォーターフロントへ移動し、下関港の近況について、下関市港湾局から説明を受けるとともに、現地を視察しました。



＜造船所の資料館を見学＞

午後は、三菱重工(株)下関造船所を訪問し、造船所の概要説明を受けた後、構内を見学。参加者は建造中の多数の船舶を目の当たりにし、その大きさに圧倒されました。同見学中には、造船所の目の前には巖流島があるため、新造船進水時には同島との距離を考慮した調整が必要になるとの説明もありました。

最後に、下関市立吉見小学校へ移り、九州運輸局下関海事事務所より海事 産業・海事教育の重要性

について説明を受けた後、当協会から「子供たちに伝えたい海運と港の話」と題し、当日見学したコンテナ・自動車ターミナルを題材として、授業でも活用しやすい内容を交えながら説明を行いました。最後に、九州海事広報協会より社会科の学習支援サイトや副教材について案内があり、終日の見学会は無事終了しました。参加者からは、「普段見ることのできない港湾・海事施設を見学でき、社会科授業に活用できる知見を得られた。」といった声が聞かれました。



＜出前授業の様子＞

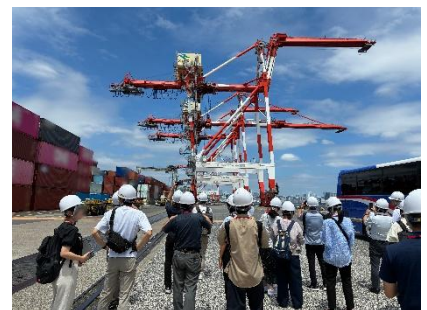
4. コンテナターミナル・RORO 船の見学会（8月5日（水） 大井コンテナターミナル・品川ふ頭）

日本海事広報協会と共催で、都中社研（東京都中学校社会科教育研究会）に参加する教員 25 名を対象に、午前はコンテナターミナル（以下、CT）、午後は TOKYO ミナトリエを見学し、最後に RORO 船を見学しました。

大井 CT では、川崎汽船・ダイトーコーポレーションの協力のもと、管理棟で CT に関する映像を見た後、屋上にてゲートの役割やヤードでの荷役について説明を受けました。その後、バスで岸壁まで移動し、多段積みされたコンテナや、間近で見るガントリークレーンの迫力に参加者は驚くとともに、貴重な経験にとっても喜んでいました。

午後は、TOKYO ミナトリエに移動し、職員から東京港の歴史等についての説明とともに、館内を丁寧に案内していただき、先生方は熱心に耳を傾けていました。

その後、品川ふ頭に移動し、栗林商船の協力のもと、RORO 船を見学しました。整然とした船橋（ブリッジ）では計器や海図について説明があった他、内航船で働く魅力やメリットについても紹介がありました。



＜CT 見学の様子＞



＜ミナトリエでの説明の様子＞



＜RORO 船 ブリッジにて＞

参加した教員からは、「海運について触れる機会がなかったが、日本を支える重要な仕事で、働きやすく安定していることを初めて知った。今後は生徒たちにも見学させたい。」との声が聞かれま

した。今回の見学会を通じて、教員の皆様に物流や海運業への理解を深めていただくとともに、今後の社会科教育に活用できる知見を得ていただく貴重な機会となりました。

5. 自動車船の見学会（8月9日（日） 横浜港）

8月8日（土）・9日（日）に横浜市で開催された「横浜うみ博2026」において、日本郵船は8月9日（日）、横浜・大さん橋で自動車船「COSMOS LEADER」の船内見学会を実施しました。

これに合わせて当協会は、日本郵船の協力のもと、日本海事広報協会との共催で、小中学校の教員等約20名を対象とした見学会を開催しました。約7,000台の自動車を積載できる全長約200mの同船は、横浜うみ博のわずか3日前の8月6日に竣工したばかりの新造船でした。



＜自動車船見学の様子＞



＜プロジェクションマッピング見学の様子＞

参加した教員は貨物スペースである船倉にてラッシング体験を行い、続いてプロジェクションマッピングを見学しました。同映像は船倉の壁に投影され、船から撮影した景色や建造の様子を見ることができました。また、投影された映像に触れることで、船内設備や世界の港を選択して表示できる仕組みとなっており、船内とは思えない体験に参加者は驚いていました。

その後、徒歩で船橋（ブリッジ）へ向かう途中、まだ貨物が積まれていない広大な船倉の大きさに、参加者からは感嘆の声が上がりました。ブリッジでは船長より、レーダーや電子海図等の航海計器について説明を受けました。

船内見学の後は、ONE（Ocean Network Express）の協力により、 -15°C のリーファー（冷凍）コンテナの体験会に参加しました。

本船見学に参加した教員からは、「実際に見ると船はとても大きく、直接見ないと分からなかった。」「4本のラッシングベルトだけで車を完全に固定できることに驚いた。」「船を普段見ることのできない貴重な機会で、今後この様な見学の機会を是非開催してほしい。」といった声が寄せられました。



＜ブリッジ見学の様子＞

当協会では、今後もこのような繋がりを活かし、学校授業での海運の説明に活用いただき、一人でも多くの教育関係者に関心を持ってもらえるよう、活動を続けてまいります。

以上